

水稲現地指導で生育状態を診断

6月下旬の3日間と7月上旬から中旬の5日間、男鹿地区営農センター管内で水稲の現地指導が行われました。

同センターの営農指導員が18カ所を巡回し、水田の様子や生産者が持ち込んだ稲を観察して、稲の草丈や株数などを測定しました。葉緑素計でSPAD値も計測して生育が順調か診断したほか、収量の増加や品質向上のため、作業の適期、病害虫や倒伏への対策などを説明しました。集まった生産者はそれぞれの稲の状態や農作業の進捗について意見を交わし、今後の稲作への意欲を高めました。営農指導員は生産者に「生育に合わせた管理に努めてほしい」と話しました。



稲の生育の進捗を確かめる営農指導員と生産者

来年稼働へ秋田市南CEの工事が本格化

秋田市四ツ小屋で秋田市南カントリーエレベーターの建設工事が進んでおり、来年3月に竣工して同年秋から稼働する予定です。安全祈願祭が6月28日(月)に開かれ、関係者約40名が参列しました。

同CEは334トンのサイロ10基(うちローテーション用1基)や30トンの遠赤外線乾燥機9基などを備え、最大で約3000トンを貯蔵できます。(農)秋田市南カントリーエレベーター利用組合の榎昌範代表理事は「このCEは、地域の農業を担う大きな存在になると思う。コロナ禍という大変な状況だが、工事の安全と無事完成を祈っている」と話しました。



CEの無事完成を祈って玉串奉奠をする榎代表理事

NEWS & TOPICS

秋田・男鹿地区合同夏ネギ現地研修会

秋田地区と男鹿地区合同の夏ネギの現地研修会が、6月30日(水)に潟上市天王の(農)ファーム北野の圃場で、7月8日(木)に秋田市新城にある(農)よみの圃場で行われました。気象経過が過酷な今後に備え、生産者らが圃場管理の注意点や病害虫防除などを学びました。

秋田地区営農センターの担当職員が軟白長や太さを確保するための管理方法を説明し、参加者は圃場やネギの様子を見ながら、作業時期や雑草対策、排水などについて話し合いました。

秋田地域振興局農業振興普及課からは従来系統より白化が激しいネギハモグリバエB系統への注意が呼び掛けられました。



ネギの太さや軟白長について意見を交わす参加者

酒米研究会が圃場巡回

当丁Aの酒米研究会による圃場巡回が、7月9日(金)と10日(土)に行われました。生産者や秋田地区営農センターの営農指導員が、酒米が植えられている水田で生育状況を確認しました。

営農指導員が水田内に入って生育調査を行い、品種や草丈、葉色や株数などを記録しました。参加者は圃場の状態や酒米の多様な品種特性を観察し、栽培時の苦労やコロナ禍での酒類の需給動向などを話し合いました。

今年度の酒米研究会の会員数は29名です。「秋田酒こまち」や「美山錦」などをはじめ様々な品種を栽培しており、県内外の酒蔵で日本酒づくりに使われています。



酒米の生育状況を確認する生産者ら

